

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：32658

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K21392

研究課題名(和文)近代東京を中心とした近代和風庭園の立地・地割・意匠とその作庭の担い手に関する研究

研究課題名(英文)A study on locations, compositions, design features and creators concerning modern Japanese style gardens in and around Tokyo

研究代表者

栗野 隆 (AWANO, Takahi)

東京農業大学・地域環境科学部・准教授

研究者番号：20393374

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、近代東京を中心とした明治・大正・昭和前期の邸宅・別荘に営まれた近代和風庭園を対象に、その立地、意匠、築造を担当した庭師の作品性と作庭活動を明らかにすることを目的とした。研究の結果、以下のことを明らかにすることが出来た。明治期東京の一万分の一地形図を分析したところ、224邸宅のうちの180邸宅が眺望に優れた場所に立地するという知見を得た。近代数寄者の営んだ庭園は那須塩原の自然風景をモチーフとすることが多く、崖の造園処理として採用された意匠は滝石組とするものが多いことが分かった。顕著な活躍をした庭師には、4代岩本勝五郎、2代松本幾次郎、松本亀吉、柴田徳次郎らを挙げることができる。

研究成果の概要(英文)：The purposes of this study is to examine locations, compositions, design features and creators concerning modern Japanese style gardens in and around Tokyo. As the results of documents analysis and field surveys, this study led the findings. 224 large scale residences in Tokyo were identified in the map which was made in the latter Meiji period. 180 large scale residences of them were positioned on cliff sides or cliff edges of plateaus. The gardens had the topographic features to get excellent views. Sukisya, who liked to have unique tea ceremonies and correct curiosities, tended to create their gardens with motives which symbolized natural landscapes in Shiobara. This study examined some modern garden artisans, who made important Japanese modern gardens in Tokyo. They were Katsugoro Iwamoto, Ikujiro Matsumoto, Kamekichi Matsumoto and Tokujiro Shibata.

研究分野：庭園史・意匠論、文化財保存計画

キーワード：近代庭園 近代和風 近代数寄者 庭師

1. 研究開始当初の背景

近代庭園史研究において近代和風庭園の主たる対象として調査研究がなされてきたのは、京都を拠点に活躍した近代の庭師・7代目小川治兵衛(屋号:植治)の庭園作品群である。本研究を推進してこられたのは、特に、尼崎博正氏、鈴木博之氏、小野健吉氏、小川後楽氏、麓和義氏、矢ヶ崎善太郎氏らである。

上記の研究者の調査研究では、植治の庭園の作風・作庭活動の詳細、植治と施主との関係(施主の多くが政・財界の富豪であり、邸宅内に茶室を建築し、名器といわれる茶道具を数多く収集した「近代数寄者」といわれる人々)や庭園の造営と都市の近代化との関係、植治の庭園をはじめ、山元春挙や神坂雪佳らに代表される近代京都画壇の作庭した庭園に「自然主義」(原寸大の自然を庭園に持ち込もうとする思想)の動きが存在したことなどが明らかにされ、最近では、近代和風庭園の空間的特質を煎茶文化との関係で考察したのものがある。

このように、近代和風庭園の研究は、庭園史、建築史、茶道史によるアプローチが見られ、多面的に進んでいる。上記研究の成果は、近代数寄者、煎茶、自然主義など、近代和風庭園を考えるうえで重要な観点によって庭園の成立要因や空間特性を明らかにしたものである。

しかし、その対象は、植治の庭園作品、または京都に営まれた近代和風庭園を中心に捉えて分析・考察したものであり、明治・大正・昭和初期にかけて多数の近代和風庭園が造営された東京について詳細を把握した研究は皆無であり、近代庭園史上、大きな空白となっている。

文化庁では、近代庭園に関する全国的な調査研究の推進を課題に掲げているが(文化庁記念物課『近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書』、2012年)、東京の近代和風庭園については、旧朝倉文夫氏庭園(台東区)や旧安田楠雄邸庭園(文京区)等の名勝への指定・登録がなされているものの、個別事例の検討に留まっているのが現状である。

以上の背景をふまえ、本研究では近代庭園の歴史を考える上で重要な情報を豊富に有する東京の近代和風庭園を対象に、立地、地割、意匠の特色、庭の所有者の好みや思想、作庭の実際を担った庭師の作品性を明らかにする。すなわち、本研究は、いまだ不明の部分が極めて多い東京の近代和風庭園の全容解明の第一歩と位置づけられる。そして、京都の近代和風庭園に関する知見に、本研究によって導かれる東京の近代和風庭園に関する新知見を加えられれば、全国の近代和風庭園の学術的価値の検討のための基本視座、評価軸の提供も可能となる。

2. 研究の目的

本研究で明らかにする課題は、以下3点と

した。

(1) 近代東京の邸宅の立地に関する整理：すでに先行研究で明治前期における東京の邸宅の立地的特色を把握されているが、これは江戸期の様相を把握したものであり、近代全般における立地の全体像は明らかにされていない。そこで、まずは近代東京の邸宅立地の全体像把握のため、明治末期に作成された東京一万分の一地形図を用いて邸宅の占地特性を網羅的に分析する。

(2) 近代数寄者の庭園に関する整理：東京を中心に大規模な和風邸宅を造営した多くが近代数寄者と言われる人々である。本研究では、近代数寄者の庭園について、関連文献や彼らの茶会記録等を調査し、現存する庭園遺構の現地調査をおこない、地割(庭園の全体の配置構成)、意匠・技法、庭園に対する好み・志向、利用の特色を整理する。

(3) 近代東京の庭師に関する整理：東京の近代数寄者の庭園を数多く手がけた庭師の作風や作庭活動を明らかにする。東京では、山縣有朋の東京の邸宅の庭園を多数手がけた岩本勝五郎をはじめ、渋沢栄一や高橋篤庵の邸宅の庭園を手がけた2代目松本幾次郎やその弟・亀吉という庭師が重要な役割を担ったことが判明しつつある。本研究では、東京を代表する近代庭師の作風、作庭活動を整理する。

3. 研究の方法

本研究では、近代東京の邸宅の立地に関する整理、近代数寄者の庭園に関する整理、近代東京の庭師に関する整理、をおこなう。そのための計画・方法を以下にまとめる。

近代東京の邸宅の立地に関する整理：明治後期、大正期、昭和前期における地形図を基本図とした邸宅のプロット作業を基礎とした分析。

近代数寄者の庭園に関する整理：近代数寄者の庭園の見学記録、伝記、茶会記、古写真等の文献調査、現存する庭園遺構の現地調査による庭園構成、意匠、作庭志向の把握。

近代東京の庭師に関する整理：庭園関連雑誌を主とした庭師に関する記事の記述内容整理、庭師の関係者筋(ご子孫や弟子の庭師の方)への聞き取り調査、現存する庭園遺構の現地調査による庭師の作風、作庭活動の整理。

4. 研究成果

(1) 邸宅の立地に関する整理

近代東京における大邸宅の立地の全体像を把握するため、明治期作成の地形図を用いて網羅的な分析をおこなった。近代東京の地形図への邸宅プロット作業を通じ、庭園がどのような地形上に立地しているのか、周辺環境との関係はどのようになっているのかといった、庭園の占地特性を導くものである。

分析に利用した地形図は、旧陸地測量部が明治42年の東京の状況を測量し作図した1

万分の1地形図(『明治・大正・昭和 東京1万分1地形図集成』柏書房発行)である。本地形図は、一定の規模を有する邸宅が「邸」と地形図上に明記され、等高線のみならず、建物や池なども判読できる点で有効であった。

分析の結果、明治末期東京における大邸宅は合計で224例確認することが出来た。これらの邸宅の等高線を確認したところ、庭園の立地タイプは、台端(敷地が崖線沿いの台地端部に立地するもの、143例)、斜面(庭園が斜面地に立地しているもの、8例)、平地(庭園が平坦な地形上に立地するもの、73例)と区分した。なお、平地の庭園については、台地上(台地上部に位置するもの、37例)、崖線下(崖線下に位置するもの、13例)、低地(周辺に崖線のない低地に位置するもの、14例)、河岸(河川や掘割沿いに位置するもの、7例)、海浜(海に面して立地するもの、2例)に細分することができた。以上の立地分類から、台端143例、平地(台地上)37例、合計180例(約8割)の邸宅が、山手台地上に営まれていることが確認でき、近代東京の庭園は台地主義(高台を好む)というこれまでの通説を定量的に明らかにすることが出来た。

(2) 庭園の写真資料の整理

近代東京に造営された画像資料を体系的に整理することを目的とし、以下の文献を確認し、近代東京の邸宅・別荘の庭園の写真を集集、整理することを試みた。

- ・近藤正一『名園五十種』、博文館、1910年
 - ・重森三玲『日本庭園史図鑑 明治大正昭和時代一』(第19巻)、有光社、1937年
 - ・重森三玲『日本庭園史図鑑 明治大正昭和時代二』(第20巻)、有光社、1937年
 - ・重森三玲『日本庭園史図鑑 明治大正昭和時代三』(第21巻)、有光社、1936年
 - ・重森三玲『日本庭園史図鑑 明治大正昭和時代四』(第22巻)、有光社、1938年
 - ・『建築工芸叢誌』第1冊～第24冊、建築工芸協会、1912年～1914年
 - ・『建築工芸叢誌』第2期第1冊～第2期第24冊、建築工芸協会、1914年～1916年
 - ・『建築工芸画鑑』第1期前編・後編、建築工芸協会、1918年
 - ・『続建築工芸画鑑』第2期前編・後編、建築工芸協会、1918年
- (なお、「建築工芸叢誌」、「建築工芸画鑑」、「続建築工芸画鑑」は、内田青蔵監修『建築工芸叢誌 復刻版』第1巻～第8巻、柏書房(2006年)を使用した)
- ・『庭園』第1巻第1号～第6巻第12号、庭園協会、1919年～1924年
 - ・『庭園』第7巻第1号～第8巻第12号、日本庭園協会、1925年～1926年
 - ・『庭園と風景』第8巻第1号～第17巻第12号、日本庭園協会、1927年～1935年
 - ・『庭園』第18巻第1号～第21巻第8号、日本庭園協会、1936年～1939年

- ・『庭園と風光』第21巻第9号～第23巻第12号、日本庭園協会、1939年～1941年
- ・『庭園』第24巻第1号～第26巻第3号、日本庭園協会、1942年～1944年

上記について確認したところ、近代東京の邸宅・別荘の庭園のうち、造営者が判明したものはおよそ451枚確認することが出来た。最終年度に作成した資料集では、これらの写真を収載し、古写真は五十音順で通し番号を付し、それぞれの写真のキャプションは、「通し番号(3桁)庭園名(氏庭園)上記文献に掲載された際のキャプション(キャプションが付されていない場合は記事の名称)」とした。収録写真には一覧表「庭園写真出典一覧」を掲載し、写真出典を明記して原典にあたるように便宜をはかり、研究材料の提供へ貢献することが出来たと考える。

(3) 東京を中心とした近代数寄者等が造営した近代和風庭園の個別事例の調査、近代庭師に関する聞き取り調査

本研究では、東京を中心とした近代和風庭園の個別事例の調査(文献調査、現在の管理者への聞き取り調査)、近代庭師に関する聞き取り調査を実施した。調査をおこなった個別庭園のうち、雑誌等に成果を公表したものは以下の通りである。旧伏見宮邸庭園(現・ホテルニューオータニ庭園)、旧久原房之助亭庭園(現・八芳園庭園)、旧三井家別邸庭園(現・綱町三井倶楽部庭園)、旧岩崎小彌太本邸庭園(現・国際文化会館庭園)、旧古河虎之助邸庭園(現・古河庭園)、旧前田侯爵駒場本邸庭園、旧遠山元一邸庭園(現・遠山記念館庭園)、神仙郷庭園。

また、東京において活躍した近代庭師、造園家に関しては以下の人物について調査をおこなった。2代松本幾次郎、松本亀吉、4代岩本勝五郎、柴田徳次郎、後藤健一、西川浩、岩城巨太郎ほか。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

- 粟野隆・秋山陽香、遠山元一旧邸(遠山記念館)庭園の構成・意匠の特色と文化財としての学術上の価値、ランドスケープ研究81巻5号、査読あり、2018年、pp.427-432
- 粟野隆、日本近代・現代の「名庭園」の系譜、庭230号、査読なし、2018年、pp.76-81
- 粟野隆、近代庭園の特色とその保護の動向、金沢城研究15号、査読なし、2017年、pp.19-30
- 粟野隆、旧前田氏駒場本邸庭園の敷地計画と煎茶趣味の庭、金沢城研究15号、査読なし、2017年、pp.45-48
- 粟野隆、近代庭園の潮流と昭和の庭園作家の系譜、庭225号、査読なし、2016年、

pp.21-24

粟野隆、近代庭園における和風の伝統と革新、近代庭園史の研究 2号、査読なし、2015年、pp.1-6
粟野隆、近代庭園史研究の現状と課題、近代庭園史の研究 1号、査読なし、2015年、pp.1-6

〔学会発表〕(計2件)

Takashi AWANO, Style features and spatial compositions of gardens in Meiji Japan, The Cosmopolitan Garden, Design and Ideas, International Symposium III, The Japanese Garden Intensive Seminar Plus in Kyoto 2017 (招待講演)

粟野隆、日治時期的日式庭園(明治・大正・昭和前期)の構造と特徴、日治時期建築匠師培訓研習資料集、2017年、pp.33-42(招待講演)

〔図書〕(計1件)

粟野隆、旧遠山家住宅の庭園、『遠山記念館(旧遠山家住宅)調査報告書』所収、公益財団法人遠山記念館、2018年、pp.66-74

〔その他〕(計7件)

粟野隆、『近代東京の邸宅・別荘庭園資料』、東京農業大学、2018年

粟野隆、近代和風と現代美術が相互貫入する場所 遠山記念館庭園、庭 229号、2017年、pp.74-77

粟野隆、綱町三井倶楽部庭園・三井グループの会員制迎賓館として現代に息づく近代庭園の傑作、庭 228号、2017年、pp.78-81

粟野隆、八芳園庭園・変わらないことが価値となり、客人を迎える饗応の庭、庭 226号、2017年、pp.82-85

粟野隆、ホテルニューオータニ日本庭園・オリンピック直前の東京において実業家と庭匠は「もてなしの庭」をどう考えたか、庭 224号、2016年、pp.76-79

粟野隆、国際文化会館・世界に開かれた日本の家 国際交流を育む近代庭園、庭 223号、2016年、pp.76-79

粟野隆、箱根美術館と神仙郷の庭園・宗教家にして造園家、岡田茂吉が構想した地上天国、庭 222号、2016年、pp.80-83

6. 研究組織

(1) 研究代表者

粟野 隆 (AWANO Takashi)
東京農業大学・地域環境科学部・准教授
研究者番号：20393374

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()